

教育目標	【School Mission (建学の精神)】 社会に真に役立つ実践的人材の育成		今年度の重点目標 1. 一人ひとりの生徒への誠実な対応 2. 教員の指導力向上 3. 学習指導要領への対応 4. 国際教育の推進 5. 校務の合理化
------	---	--	---

年度当初					最終評価	
評価項目	具体項目	現状	目標 (年度末目指す姿)	目的達成のための方策	評価	経過・達成状況・改善方策
1 一人ひとりの生徒への誠実な対応	環境整備の徹底と防災対策の充実	日々の清掃は比較的行き届いていると思われるが、歴史ある校舎のため、修繕を要する箇所が見受けられる。定期的に防災訓練を行っている。	校舎の修繕を適宜行う。自己の生命を守るとともに生徒同士が助け合える行動をとれる防災訓練を実施する。	学校内連携を図り、破損箇所の速やかな修繕に努める。火災、地震の避難訓練を実施し、災害時への対応を確認する。	B	申し出のあった箇所については早い段階での修繕に努めることができたが、それ以外の箇所での修繕の必要箇所がまだ見受けられるため、今後も継続して速やかな修繕に努める。避難訓練を火災、地震ともに実施したが冬休みに襲った大きな地震を振り返ると、これまで以上に命を守る、助け合う行動がとれるような訓練にしなければならない。
	学校と保護者との協力関係の構築	保護者に定期的な学校行事への参加協力を頂いている。	行事への参加を通じ、学校生活を過ごす生徒の姿を見もらう。	三役会、総務委員会等を通じて保護者へ学校行事の参加協力を呼び掛ける。	A	学校行事に参加するたびに学校の様子や生徒の姿が見られるため、子供が卒業するまで松萌会活動に関わりたいたいという言葉をいただいた。今後も積極的な行事への参加を呼びかけていきたい。
	基本的生活習慣・公心の育成	社会生活におけるマナーやモラルが遵守できていない生徒に対して規範意識の育成が必要である。	規範意識の向上を目指す。ルール・マナーを遵守する。	全教職員で共通理解を図り、少しでも気になることは声をかけ粘り強く指導を行う。	B	教職員から声かけをしたり細やかな指導をしたりすることで規範意識は定着しつつある。ヘルメットの着用率がまだ不十分なので継続指導して行く。
	様々な生活指導上の問題の防止	特にSNSに起因する問題行動が増加している。	情報モラル・リテラシーを育み自らの判断でトラブルを防止する。	生徒の安心・安全が確保できるよう関係機関の連携をしっかりと行うとともに、講演会を行いトラブル防止の啓発に努める。	B	各クラスでの指導や呼びかけ、集会などを通して、特にSNSに関するトラブル防止に努めた。今後も生徒自身危機意識を持ち行動できるよう促して行く。
	各部署と連携をとり、生徒の相談と支援の実施	支援が必要な生徒の増加、多様化に対し、学年部の協力を得ながら適切な教育相談・支援に務めている。	学校全体で理解を深め、適切な支援を行う。	切れ目のない支援のための引継ぎを行う。適切なアセスメントを行う学校内外の連携を行う。	A	中学校からの引き継ぎの多くは、問題が顕在化することなく学校生活に適應できている。合理的配慮の実施については必要に応じて学年・保護者・SC・SSWと連携を取りながら支援にあたった。
	学校行事等を通じて生徒の自主自律の精神を育てる	学校行事やイベントへの参加を通じて、生徒一人ひとりが主体的に考え行動できる生徒会を目指す。また、生徒会だけでなく生徒全体が主体となるイベント開催を目指す。	学校行事の充実を図る。生徒会活動の充実を図る。部活動との連携を行う。	学校行事の開催に向けて早めに計画を立て、より良いイベントが実施できるよう準備する。学校生活をより充実したものにするために、定期的に部会を開き、議論する。	A	各行事において執行部が中心となり、滞りなく実施できた。今後も新たな試みや見直しを図りながら、より良い生徒会の運営を目指す。また、余裕をもって準備に臨めるよう、引き続き早目に取り組んでいく必要がある。また、部会を開催して定期的に集まり、現状の確認や審議を行う環境が必要である。
探究活動のより一層の推進を図る	多くの生徒の選択肢を増やし、自ら望んだ進路を選択するために、どう総合的な探究の時間を行っていくことが必要なのかを考えてきた。また、教育目標の実現に当たっては総合的な探究の時間が重要な役割を果たすことを全教職員で理解することが欠かせないことを理解してきた。年間の全体計画をはじめとする各種計画の作成、校外の支援者との連携のためにコーディネーターの機能を果たした。	「主体的・対話的で深い学び」興味関心のある探究活動により学ぶことの楽しさを実感することを目指す。生徒が未来社会を切り拓くための資質・能力を一層確実に育成することを目指す。	①課題の設定 ②情報の収集 ③整理・分析 ④まとめ・表現 ①～④に従って他者と協働して主体的に取り組む学習活動にする。	B	以下の観点で各学年の探究活動を取り組むことができた。ただし、1年生および2年生に関しては活動は継続中である。 ・社会が抱える課題や自身と社会とのかわりについて、情報を適切に活用して知ろうとした。 ・課題解決に向けて、多角的な視点から論理的に検討考察し、自身の考えを他者に伝えようとした。 ・自身と異なる意見や価値観を尊重しながら、他者と協力して主体的に社会活動に取り組もうとした。	
2 教員の指導力向上	授業評価の実施 (年2回)	生徒による授業評価アンケートを継続的に実施しており、経年の分析結果を指導力向上に活用している。	評価結果をもとに、各々で授業を客観的に振り返ると共に、教科内で評価を把握、分析し、指導力の向上に繋げる。	全教員の年2回の授業評価アンケートを実施し、教科ごとの評価を校内で共有する。	A	年2回の授業評価アンケートを実施し、その結果をもとに各自で振り返りを行った。アンケート結果を教科内で共有し、教科の指導における課題を分析して指導力の向上に努めた。
	1人ひとりの可能性を最大限伸ばし、希望の進路を実現する	受験の形式が多様化するため、生徒一人ひとりとコミュニケーションをとり、指導にあたる必要がある。また、高い目標を目指す生徒へのサポート体制を構築する必要がある。	すべての生徒を希望する進路決定させる。その中で、国公立大学や難関大学への合格者を多く輩出する。	BLEND等を有効活用し、担任、出願担当者、部長の間での連携を密にとり、生徒にとって最適な受験方法を提案し、サポートする。	A	一人一人の生徒と丁寧に対話を重ね、より適切な受験方法を提案することができた。就職希望者は概ね希望する企業から内定をもらい、進学希望者のうち、すべてのコースから国公立大学の合格者を出すことができた。
	体制を強化し進路実績を高める	進学希望者が増加しているため、教員一人あたりの受け持ち生徒数が増えている。就職についても生徒の希望が多様化している。	多くの教員が志望理由書作成指導や小論文指導が出来る体制を構築する。教員一人ひとりが専門性に優れた高度な進路指導を出来るようにする。	教員対象の小論文研修会の実施や、生徒対象の進路講演会等への参加を積極的に勧めるなど教員が学ぶ機会を設ける。進路指導部会を開催し、進路指導について互いに研鑽する機会を設ける。	B	生徒対象の進路講演会では多くの教員も参加し、最新の入試情報を取り入れることに努めることができた。多様化する受験に対して引き続き、研修を積み重ね指導力の向上を図ることが求められる。
	生徒の人権意識を高め、思いやり・倫理観の育成	人権感覚が高く、自他の人権・権利を大切にできる生徒が多い一方、クラス・部活動で不適切な発言をする生徒もいる。	言葉・表現を大切にお互いの尊厳を認め合い、不適切な発言を許さない技能・態度を身につける。	毎日の学校生活は勿論、人権ホームルーム、人権講演会、言葉遣いアンケートを通して人権感覚を高める。	B	全学年各テーマに基づく人権教育は最終段階として生徒の実践力を養い、ことば遣いアンケートも結果をふまえた啓発まで行っている。人権感覚の鋭い生徒がクラス・部活動少数の不適切発言を指摘しているが、目下、教師・顧問による指導を要請している。
募集活動につながる広報活動のさらなる強化	広報イベントを拡充し広く参加者を集めている。Web・SNS・印刷物等での情報発信を適切に行っている。広報活動を通じて学校ブランディングを行っている。	開かれた学校づくりの推進と学校ブランディングを行う。	広報イベントの拡充、Web・SNS・印刷物・制作物による情報発信、学校説明プレゼンテーションの改善を図る。	A	広報イベントを適切に行うことができた。SNS・印刷物・制作物による情報発信を適宜行うことができた。広報媒体のリニューアル・ブラッシュアップを図り、効果的募集活動につながるよう体制を整えることが今後の課題である。	
3 学習指導要領への対応	新しい学力観に立脚した教育の推進	生徒の思考力や問題解決能力を育むために必要となる学習内容や到達目標、評価方法を全教職員で共有しながら学習指導を行っている。	情報交換を活発に行い、偏りがない教科横断的な学習指導を継続する。	相互に授業見学を行うなどして、効果的な指導方法を共有できる機会を増やす。	A	教科内における情報交換を活発に行い、新たな学力観に沿ったよりよい教材づくりや指導力向上に繋げた。教員同士で授業を公開し、教科横断的な広い視点で授業構成や指導プロセスを検討する機会を増やした。
4 国際教育の推進	グローバル人材の育成	現在、本校には海外からの留学生が在籍しており、他の生徒たちとの異文化交流が活発に行われている。昨年度には、澳門からの訪問生徒を受け入れ、本校生徒との交流を実施した。	生徒一人ひとりが豊かな語学力と高いコミュニケーション能力を身につけるとともに、異文化への理解を深める体験を重ねることにより、国際社会において主体的かつ協動的に行動できる人材の育成を目指す。	海外からの留学生の受け入れを推進し、生徒が日常的に異文化に触れられる環境を整備する。留学生との共同学習や学校行事を通じて、互いの文化を理解し合う異文化交流の機会を充実させる。海外の学校との連携を強化し、生徒の国際的な視野を育む。	A	中国およびニュージーランドからの留学生を受け入れるとともに、セブ島やアメリカ・バーモント州への短期留学、アメリカの学校との交換留学を実施するなど、双方向の国際交流を継続的に推進した。これらの取組を通して、生徒の異文化理解の深化や、英語を含むコミュニケーション能力の向上が見られ、国際的視野の拡大に一定の成果が認められる。今後は交流の質と学びの深まりをさらに高める工夫(事前・事後学習、成果の共有、受け入れ・送り出し体制の充実等)を行い、多様な国・地域との協働を通じて、グローバル人材の育成を一層推進していきたい。

5 校務の合理化	学校行事の円滑な運営	感染症の感染対策を継続し、学校行事を運営している。	安全かつ合理的に学校行事を運営する。	早期に緻密な計画を立てるよう努める。	A	具体的な計画を早期に立てると共に、必要な感染症対策を行って安全に学校行事を運営した。
	円滑で正確な入学試験事務の実施	Web出願の導入により入学手続きまでの状況が確認しやすくなった。	より合理的な入学試験事務作業の方法を構築する。	スケジュールを把握し、担当者間の連携に努める。	A	出願から合否発表の作業までスケジュールに則った円滑な入試業務を実施することができた。

評価基準 A：十分達成 B：概ね達成 C：まだ不十分 D：目標・方策の見直し